

慶成高等学校

令和7年度一般入学試験問題

国語

注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
- 2 問題は、1ページから10ページまであります。
- 3 解答はすべて解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 4 解答用紙の※印の欄には、何も記入しないでください。
- 5 句読点は全て字数として数えてください。
- 6 試験時間は50分間です。
- 7 試験終了の合図で筆記用具を置き、解答用紙を裏返しにして、机の上に置いてください。
- 8 解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰ってください。

一 (1)と(2)について答えよ。

(1) 次の【文章】を読んで後の間に答えよ。

【文章】

現代においては「待つ」という時間に対して、誰もが不寛容になってきていると思われる。そう言う私自身がそうなのである。

東京の山手線はすごいと思う。ア 5分と間隔をあけずに、次の電車がやってくる。朝のラッシュ時など、どの駅にも1台ずつ電車が停まっているのではないかと思うほどである。あの長距離を走る新幹線でも、多い時間帯は10分と間隔が空いていない。私たちは、そんな待ち時間に慣れてきてしまった。

イ、バス停で10分や15分待つのには普通のことであったが、この頃の京都の市バスなどは、次のバスがどこまで来ているかを表示してくれる。ありがたいことだが、乗客が待つという時間に対して、耐える力が減退しているということの証左とも言えよう。

待つというストレスから解放され、便利になったのだから文句を言う筋合いはないのだが、ちょっと待てよと思わなくもない。それは情報を得るスピードに関してである。近年、私たちのまわりで、ウ 大きく変わったのがインターネットの普及であることはまちがいないだろう。インターネット環境が激変し、コンピュータからだけでなく、スマホからも簡単にアクセスでき、私たちは、どこにいてもインターネットにつながっている。

インターネットの普及によって、必要な情報が、エ すぐ手にはいるようになった。ある一つの言葉を調べるために、分厚い辞書を本棚から持ちだしてきて、そのページをめくるといような面倒な手続きを経ることなく、目的とする単語にネットはすぐさま接続してくれる。ある事件を調べるために、図書館に行つて、関係資料を持ちだすという手間をかけなくとも、ネットの情報で、^①アウトラインを掴むことは、ほとんどの場合可能になっている。

いまや情報や知識を得るために必要な時間と手間は、ネット普及前に較べて、比較にならないほどに少なくなっている。まことに手軽になり、高い辞書を買うことも、図書館まで調べに行くことも、ほとんど必要ないまでに手軽になってしまった。

これを駄目だと言う自信は、私にはない。ないが、それでいいのかもしれない。

私が危惧を感じるのは、まず第一に、「知」があまりにも手軽に手に入るといふ状況は、これからの私たちの「知」へのリスペクト(尊敬)の念に、大きな変更を迫ることになるだろうということである。諸橋轍次の『大漢和辞典』を引くとき、新村出の『広辞苑』を引くとき、その行間に、私たちははつきりとは意識しないまでも、これを営々とした努力の末に完成させた人(あるいは人々)の存在を、かすかに感じているはずである。その恩恵を蒙^{こうむ}っている。

るという意識は、それが必ずしも感謝にはつながらないまでもどこかで感じているだろう。

あつけなく情報が入ってくるネットでは、そして誰がそれを書いたのかがはつきりしないような説明文からは、そのような「知への尊敬」の念はほとんど湧いてこないというのが実感である。「知」というものがなんとなく入ってくるという前提からは、「知」の開拓のために自らの人生を賭けてみようなどという若者が生れるとは考えにくい。

いま一つの問題と私が考えるのは、「知」へのアクセスの直截性^{ちてきせい}である。グーグルにせよ、ヤフーにせよ、検索エンジンにはまことに見事に、知りたと思う情報に私たちを直接導いてくれる。時間の無駄もなく、まことに効率的である。

しかし、この「知」への着地の仕方には、実はなんのおもしろみもないと、私などは思うのである。本が欲しい。本屋へ行つて、なかなか見つからない一冊の本を探す。図書館でも同じであろう。そんなとき、探しているのとは違うものだが、背表紙を見てとても興味を引かれて、思わず買ってしまったなどという経験は、多くの人にあつたはずだ。

この「X」 「式」の、偶然の出会いという形での「知」への遭遇は、ネット環境下では、まず起こり得ないものだろう。一直線に、いま求めている情報へと私たちを導いてくれる。アマゾンで本を注文すれば、欲しい本だけが見える仕組みになっている。意識の外側にあつて、普段は現れてこないのだけれども、背表紙を見ていて不意に自分の別の興味に火がつくといった形での、「知」へのアクセスの仕方、実は読書や調べものの楽しみは、こんな思わず入った横道での出会いにこそあるのかもしれない、私は思っている。

「待つ」という時間に耐えられないで為す知識や情報へのアクセスは、効率的ではあるが、幅ということからはきわめて^③限定的と言わざるをえない。読書の豊かさといったものは、そんな寄り道にこそあるのだから。

(永田和宏「知の体力」による。一部改変)

(注) 証左…証拠。直截…ためらうことなく、直ちに決裁すること。

問一 本文中の **ア** **エ** に入る語句として最も適当なものを、次の1～5からそれぞれ一つ選び、番号を書け。

- 1 かつては 2 とにかく 3 とうてい 4 ほとんど 5 もつとも

問二 本文中の **ア** **エ** の意味として最も適当なものを、次の1～4から一つ選び、番号を書け。

- 1 例外。特殊なもの。 2 つながり。文脈。 3 あらまし。概要。 4 結論。締めくくり。

問一 【資料】の——線を施した部分と同じような状況を言い表している部分を【文章】から探し、初めの三字を抜き出して書け。

問二 【資料】の① いわゆる② の品詞と、次の③ 1～4の——線を施した後の品詞が同じものを一つ選び、番号を書け。
1 大した問題ではない。 2 大いに喜んでもらいたい。 3 大きく成長した。 4 大きいものを選ぶ。

問三 【資料】の② 読書③ と同じ構成の熟語を、次の④ 1～4の中から一つ選び、番号で答えよ。

- 1 未読
- 2 読者
- 3 朗読
- 4 読経

問四 【資料】の③ 書籍④ の漢字の読みを平仮名で書け。

問五 次は【資料】の④ 紀行⑤ を毛筆で描いたものである。アとイの部分に表れている行書の特徴として最も適当なものを、次の①～④の中からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えよ。



- 1 点画の連続
- 2 筆順の変化
- 3 点画の省略
- 4 点画の変化

「わたし」は高校時代に「上田さん」という教師に出会う。上田さんは教科書ではなく、自分の選んだ現代詩を教材として授業を行う。

上田さんは、おそらく週末を潰して準備したのだろう、藁半紙にガリ刷りしたプリントを山ほど抱えてきて全員に配り、一番前の生徒にむかってそれを朗読してみるように命じた。「言葉なんかおほえるんじゃないなかつた」。指名された生徒はわけもわからずに朗読した。

「どうだい。すばらしいだろう」と、上田さんはいった。「これは田村隆一の『帰途』という詩だ。意味がわかるかい？」

「少しもわかりません」と、生徒が答えた。「言葉がなかつたら、人間でなくてサルになってしまいます」と彼が付け加えると、教室の全員が笑った。

調子の狂った上田さんは、その後ろの生徒に次の詩を読むようにいった。「おれは大地の商人になろう」と、彼は怒鳴るように大きな声で谷川雁の「商人」を読み終えた。そしてその後で、聞かれもしないのに「さっぱりわかりません」と答えて、教師を悲しませた。三番目の生徒が読まされたのは、岩田宏の「感情的な唄」という作品だった。学生、糊、ポリエチレン、酒、バックル、為替といったぐあいに、自分の嫌いなものを列挙していき、次にバス停留場、古本屋、猿、豚、指と、逆に好きなものを列挙していくだけの、きわめて簡単な構造をもった詩だった。これにはようやく生徒も「面白い」と積極的な反応を見せた。上田さんは、いかにもホッとしたような表情になった。このあたりでチャイムが鳴り、二回目の授業は終了した。

田村隆一、谷川雁、岩田宏……。上田さんが生徒たちに教えようとしたのは、自家製の現代詩アンソロジーだった。彼はそれを一通り終えると、谷川俊太郎の『二十億光年の孤独』や金子光晴の『女たちへのエレジー』から作品を選んできてはガリ版で印刷し、生徒たちに読ませた。生徒たちのうちおよそ半分は、これまで小学校や中学校で見知ってきた詩なるものとあまりに違っているこうした現代詩を、まったく受け付けようとしなかつた。残りのうち半分は、この新任教師の過激な実験的授業に対して、いったいそれが国語の能力にどう関係するののかといった調子で、反撥に近い反応を示した。わたしを含めて教室のなかの四、五人の生徒だけは、はじめて身近に接することになる、日本のもっとも新しい詩なるものに深い関心を抱いた。配られたプリントが、その年になって思潮社が刊行を開始した現代詩文庫の刊行順に、一人一編ずつ選びだして作ったものであることをわたしが知ったのは、ずっと後になってのことだった。

わたしは素朴に田村隆一が書き付けた「血」とか「夕焼け」という言葉に、これまでまったく知らなかつた新鮮な感情を発見したような気がした。

谷川雁の詩は晦渋^{かじゅう}であったが、谷川俊太郎が自分とほぼ同じ年齢のときに愛犬の死を謳った「ネロ」という作品には、素直に共感できると思った。^④詩とはこんな風に、隣にいる人間に息を吹きかけるまでに身近に書いていいのだという、奇妙な安心感を抱いたのである。こうして一学期の国語の授業は進行していった。二学期になると、上田さんは「今度は現代の小説を読もう」と教室で突然に提案し、大江健三郎の短編『死者の奢り』を教材にして、輪読を開始した。サルトルからノーマン・メイラーまで、さまざまな文学者の名前が、彼の口から漏れた。わたしがただちにこの未知の小説家に夢中になったことは、いうまでもない。

(四方田大彦『ハイスクール1968』による。一部改変)

(注) アンソロジー：異なる作者が特定のテーマで手掛けた作品を集めた選集のこと。反撥：反発。晦渋：言葉や文章が難しく、意味が分かりにくいこと。謳った：明確に文章で表現する。輪読：数人が一冊の本をかわるがわる読んで解釈し意見を交わすこと。

問一 次の の中は、本文中の ^①教室の全員が笑った。理由について横浜さんと鎌倉さんと先生が田村隆一の『帰途』を参考にして会話している場面である。 **ア** に入る内容を『帰途』の詩の中から十字で探し、そのまま抜き出して書け。また、 **イ** に入る内容を、五字でまとめて書け。

帰途 田村隆一

言葉なんかおぼえるんじゃなかった

言葉のない世界

意味が意味にならない世界に生きてたら

どんなによかったか

あなたが美しい言葉に復讐されても

そいつは ぼくとは無関係だ

きみが静かな意味に血を流したところで
そいつも無関係だ

あなたのやさしい眼のなかにある涙
きみの沈黙の舌からおちてくる痛苦
ぼくたちの世界にもし言葉がなかったら
ぼくはただそれを眺めて立ち去るだろう

あなたの涙に 果実の核ほどの意味があるか
きみの一滴の血に この世界の夕暮れの
ふるえるような夕焼けのひびきがあるか

言葉なんかおぼえるんじゃなかった
日本語とほんのすこしの外国語をおぼえたおかげで
ぼくはあなたの涙の中に立ちどまる

ぼくはきみの血の中に入ったひとりで帰ってくる

(田村隆二『言葉のない世界』による。一部改変)

横浜さん 詩の中の「言葉のない世界」とは **ア** 世界のことですね。

鎌倉さん つまり、「言葉なんかおぼえるんじゃなかった」とは言葉そのものではなく、
イ を覚えるのではなかったという意味で
すね。

横浜さん しかし、生徒たちは **イ** ではなく、言葉そのものを「覚えるんじゃなかった」と解釈したので「言葉がなかったら、人間

先生

ではなくてサルになってしまいます」という発言が導かれたのですね。
そうですね、だから教室の全員が笑ったのですね。

問二 本文中の「感情的な唄」^②とあるが、これはどのような作品であるか。本文中から十四字で探し、そのまま抜き出して書け。

問三 次の□^③の中は、本文中の□^③いかにもホツとしたような表情になった□^③について述べたものである。□^③について述べたものである。□^③に入る内容を七字でまとめて書け。また、□^③に入る内容を、本文中から五字以上十字以内で探し、そのまま抜き出して書け。

上田さんは授業を通して、□^③A□^③を伝えたいと考え熱心に準備をして授業に臨んだところ、生徒たちの反応はよくないので、生徒の「さっぱりわかりません」との発言に悲しんだ。しかし、ある詩をきっかけに生徒も□^③A□^③に気付き□^③B□^③をするようになったため、ホツとした表情になったのである。

問四 本文中の□^④詩とはこんな風に、隣にいる人間に息を吹きかけるまでに身近に書いていいのだとあるが、これについて説明したものとして適当なものを、次の1～4から一つ選び、番号で書け。

- 1 詩とは、様々な人に理解してもらう必要はなく、限られた身近な人だけに理解されたらよいということ。
- 2 詩とは、難解なものであり、自分ひとりだけが理解できたらよいということ。
- 3 詩とは、難解なものと思いがちだが、身近な人や出来事を題材にしてもよいということ。
- 4 詩とは、多くの人に理解してもらう必要があるため、口語で書けばよいということ。

三

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

あるがさみ、あまた子を持ちけるなり。その子己が癖に横走りするを、母これを見て、諫めていはく、「汝らに何によりてか横さまに歩みけるぞ」と申しければ、子謹んでうけたまはり、「一人の癖にてもなし。われら兄弟皆形のごとし。然らば、ありきたまへ。それを学び奉らん」といひければ、「さらば」とて先にありきけるを見れば、わが横走りに少しも違はず。子笑ひて申しけるは、われら横ありき候か、母の歩かせたまふは、縦ありきかと笑ひければ、言葉なふてぞゐたりける。

そのごとく、、人のあやまちを言ふものなり。もしやさやうに人の笑はん時は、退ひて人の是非を見るべきにや。

〔伊曾保物語〕による。一部改変

(注)がさみ…カニの一種。 あまた…たくさん。 諫めて…注意して。 ありきたまへ…お歩きください。 学び奉らん…まね申し上げましょう。 候か…ですか。

歩かせたまふ…お歩きなさる。 言葉なふてぞゐたりける…何も言えずにいた。

問一 本文中の「いはく」をそれぞれ現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書け。

問二 本文中の会話文に「」のついていない部分がある。その部分を本文中から探し、初めと終わりの三字をそのまま抜き出して書け。

問三 本文中に「形のごとし」とあるが、子の意見として最も適当なものを、次の1～4から一つ選び、番号を書け。

1 本来の習性に従っているということ。 2 無理に同じにしているということ。

3 それぞれ全く違っているということ。 4 いつも一通りではないということ。

問四 本文中の「然らば」と同じ意味の語句を本文中から三字で探し、そのまま抜き出して書け。

問五 本文中のに入る語句として最も適当なものを、次の1～4から一つ選び、番号を書け

1 わが子の癖をかへり見て 2 わが子の癖をかへり見ず

3 わが身の癖をかへり見て 4 わが身の癖をかへり見ず

四

次の資料は「日本語の特徴で魅力を感じる」ところ」のアンケートの結果である。【資料】を読んで、後の条件1から条件4に従い、作文せよ。

条件1 文章は二段落構成とする。

条件2 第一段落には、【資料】A～Eのうちいずれかのグラフからわかることを挙げ、それについてあなたが考えたことを書くこと。なお、グラフはA

～Eの記号で示すこと。

条件3 第二段落には、あなたが考える「日本語の特徴で魅力を感じる」ところを一つ挙げ、魅力を感じる理由を自分の知識や経験と結び付けて書くこと。

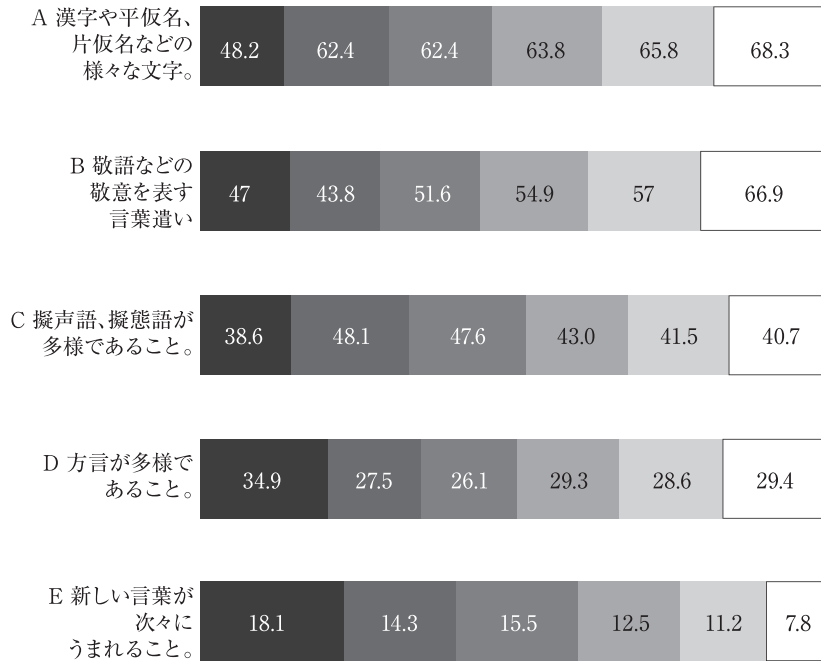
条件4 題名と氏名は書かず、原稿用紙の正しい使い方に従い、七行以上九行以内で書くこと。ただし、文の数は問わない。

【資料】

日本語の特徴で魅力を感じるころ

■16～19歳 ■20代 ■30代 ■40代 ■50代 □60代

数値は「感じる」と答えた割合(%)



(文化庁 「令和5年度 国語に関する世論調査」を基に作成)